

# 談話におけるフィラー「ま(ー)」の待遇差に関する予備的考察

## Preliminary Study on the Attitude Differences of "ma(a)" Filler in Japanese Discourse

魏 春 娥\*

Chune Wei

### (要旨)

日常会話で、発話者は、相手との上下親疎関係により、常体を使ったり、敬体を使ったりしてコミュニケーションする。主に敬語表現を使うか否かによって、相手との待遇関係が反映される。また、発話者の多くは、言いよどみなくしゃべるのではなく、「あの(ー)」や「ま(ー)」などを発しながら発話する。「あの(ー)」「ま(ー)」などの一見無意味な語の存在は、書き言葉には見られない話し言葉の特徴の一つであり、それは伝統的な国語学では「感動詞」「間投詞」と呼ばれるが、その詳細な研究は近年になって始まったばかりである。

本稿では、コミュニケーションする際に、相手との待遇差が敬語表現を使うか否かだけでなく、「あの(ー)」「ま(ー)」などのフィラーにも現れることを主張する。特に、自然談話に現れるフィラーの「ま(ー)」を観察し、相手との上下親疎関係によって、待遇差がフィラーに現れることを検証する。その結果、統語的には「ま(ー)」の前の要素が独立性の高い場合に、談話的には「ま(ー)」の前の要素が談話運営上発話者に有利になるように機能する場合に、「ま(ー)」に待遇差が反映されることが判明した。

【キーワード】 談話分析、話し言葉、フィラー、待遇差、対人関係

## 1. はじめに

日常会話で、発話者の多くは、言いよどみなくしゃべるのではなく、「あの(ー)」や「ま(ー)」などを発しながら発話する。「あの(ー)」「ま(ー)」などの一見無意味な語の存在は、書き言葉には見られない話し言葉の特徴の一つである。伝統的な国語学では「あの(ー)」「ま(ー)」などは「感動詞」「間投詞」などと呼ばれ、一つの品詞に位置づけられるが、その詳細な研究は近年になって始まったばかりである。

具体的には、以下の例を見られたい。

- (1) G:そこへ行き着くまでにずいぶんなかなか大変だったんですって  
H:そうですね いろいろあるもんですね アノー マー うちの母は だから マー離婚をして それから今の父と再婚をして(《19》)

(山根智恵2002:225 下線引用者)

- (1)の下線を引いた「あの(ー)」「ま(ー)」  
(本稿は「ま」と「まー」を同じに取り扱い、

\* 山口大学大学院東アジア研究科 (The Graduate School of East Asian Studies, Yamaguchi University)

いずれも「ま(ー)」と記述する)は、日本語の自然談話に頻繁に現れる、話しことばの特徴である。伝統的な国語学では文の研究が中心で、これらの「あの(ー)」「ま(ー)」などのように話し言葉の特徴とも言える言葉を取り上げる研究者はほとんどいなかった。ところが、近年話し言葉が研究の対象となるにつれ、そこに見られる様々な表現が分析されるようになると、これらの「あの(ー)」「ま(ー)」なども注目されだした。

これら「あの(ー)」「ま(ー)」などは、これまで様々な呼び方がされてきた。話し言葉を対象とする一連の研究の中では、「遊び言葉」(伊佐早敦子1953)、“hesitation”(塩沢孝子1979)、「言いよどみ」(小出慶一1983)、「無意味語」(山下暁美1990)、「フィラー」(野村美穂子1996、山根智恵2002、小磯花絵他2004)などの名称がつけられている。

本稿では「あの(ー)」「ま(ー)」などをフィラーと呼ぶ。フィラーは、小磯花絵他(2004:9)の「場繋ぎ的な機能を持つ表現」、大工原勇人(2010:8)の「考える」「思い出す」「言葉を選ぶ」など、話し手が何らかの情報処理的な心身行動を行っている最中に典型的に発話される感動詞類の下位類」という定義を踏まえ、本稿では次のように定義する。

## (2) フィラーの定義：

発話者が何らかの心的操作を行っている最中に、発する場繋ぎ的な機能を持つコトバ。

なお、本稿では、下の(3)の「あ」「あら」のような感情表出表現(驚き、気づきなど)などの感動詞と「うん」のような応答表現などの応答詞はフィラーと考えていない。

## (3) S：ア 山根ですけど

T：あら 智恵ちゃん

S：あ うん わたしわたし ウン

T：こんばんは

(山根智恵2002:249 表記一部改変)

日常会話で、発話者は、相手との上下親疎関係により、常体を使ったり、敬体を使ったりしてコミュニケーションする。主に敬語表現を使うか否かによって、相手に対する待遇差が反映される。フィラーもコミュニケーションに使用される要素だとすると、待遇差は、敬語などを使うか否かだけではなく、フィラーにも現れることが期待される。

筆者が行った自然談話の会話調査でフィラーの「ま(ー)」の出現頻度が一番高かった。そこで本稿では、フィラーの「ま(ー)」を観察し、統語論的、談話論的な面から、「ま(ー)」の生起環境を分析する。そして、「ま(ー)」の待遇差を明らかにする。

## 2. 先行研究

本節では、フィラー、待遇表現、「ま(ー)」に分けて、それぞれに関する先行研究を振り返る。結果としては、フィラーのそれぞれの形式と待遇差を関連付けたような先行研究は見られていない。

### 2.1. フィラーについて

フィラーの研究は、3期に分けることができる。第1期は1950年から1969年までで、フィラーが指摘され始めた時期である。第2期は、1970年から1989年までで、フィラーが多く取り上げられた時期である。第3期は、1990年以降今日までで、フィラーが盛んに研究されている時期である。1980年代後半から、談話分析が盛んになり、談話の中での様々な言語表現が研究対象となり、フィラー研究は言語学、言語学以外の分野でも行われてきた。

認知的アプローチにおいては、談話管理の立場や、情報処理操作の面からの研究も行われている。定延利之(1993)は、「フィラー」を話し手が行う様々な心的情報処理を明らかにする機能を持つものと捉えている。定延利之・田窪行則(1995)は、「ええと」「あー」は話し手が何らかの心的操作を行っている間に発話される「心的操作標識」であるとしている。田窪行則・金水敏(1997)は、感動詞・応答詞を心的な情報処理の過程が表情として声に表れたものとし、「入出力制御系」と「言いよどみ系」とに分類している。

談話分析では、フィラーは「談話標識(discourse marker)」（泉子・K・メイナード1997）、「談話辞(discourse marker)」（橋内武1999）と呼ばれている。

山根智恵(2002)は、講演、留守番電話、対話、電話という4種類の談話形式から、フィラーの種類、機能などを研究し、フィラーには、「話し手の情報処理能力を表出する機能」「テキスト構成に関する機能」「対人関係に関わる機能」の3種類があると結論づけている。

これまでのフィラーに関する研究は、個々のフィラーの機能における分析が多く、フィラーと待遇の関係についての研究はほとんどない。

## 2.2. 待遇と待遇表現

日本語研究の中で、待遇研究はかなり蓄積されている。それらは主に待遇表現の中の敬語表現が中心である。特に、菊地康人(1997)と蒲谷宏他(1998)は、敬語動詞の使い方を巡って研究している。

待遇表現に関して、菊地康人(2003:32)は次のように解説している。

「あの会社は待遇がいい」とか、「待遇の改善を要求する」というように、き

わめて一般的に用いられるが、その場合、給与や勤務条件を指するのが普通である。また、「田中さんの家でひどい待遇を受けた」のように使う場合には、お客さんに対するもてなし方を表す。例えば、あの人は玄関で簡単に対応しようとか、大切な人だから応接間に通して、いいお茶を出そうとか、あの人は親しいともだちだから居間で話そうとか、子供がいるからケーキを出そうとか、食事の時間なのでお寿司でもとろうとか、場合によっては泊まっていてもらおうということもある。逆に、ある場合には、相手に対して非常に腹を立てているので、門前払いをする、ということもあり得る。このように、私たちは相手や相手との関係・場面などに応じて、それにふさわしいもてなしの仕方を選択する。

同じことが、言語の選択にも当てはまる。ある話題主が「行く」ということを表現したい場合、「行く」と言っても、「いらっしゃる」や「行きやがる」と言っても、その‘go’という意味は変わらない。しかし、私たちは例えば‘go’という意味を表すさまざまな表現の中から、聞き手や話題主、場面などに応じて、その場にもっともふさわしいと思われる表現を選択する。これが待遇表現である。」

待遇表現には、通常語、敬語、親愛語、尊大語、軽卑語などがある。現代の敬語表現は、尊敬語、謙讓語、丁寧語、丁寧語、美化語の5分類されている(文化審議会答申『敬語の指針』2007)。従来の敬語論は、待遇差が主に敬語表現の敬語動詞に現れるが、本稿は無視されがちなフィラーにも待遇差があることを検証する。

### 2.3. 「ま(一)」について

フィラーの「ま(一)」に関する先行研究としては川上恭子(1993,1994)、富樫純一(2002)が挙げられる。ここでは、その要点を示し、さらに問題点を指摘する。

川上恭子(1993,1994)は、「ま(一)」を談話中に現れる位置によって分類している。発話冒頭に現れる「ま(一)」を「応答型用法」と呼び、発話内の文頭、文中に現れる「ま(一)」を「展開型用法」と呼んでいる。「ま(一)」の基本的な意味を「いろいろ問題はあるにしても、ここではひとまず大まかにひきくくって述べる」(川上恭子1993:77)としている。

「ま(一)」を応答型と展開型と2分類して分析するのは評価できると考えられる。また、「ま(一)」の機能として「先行発話を受けつつ次への展開をスムーズに誘導する」(川上恭子1993:77)、「後続する話題・話線が、それ以前の話題・話線から転換することを予告しつつ、転換(中略)転換後、スムーズに後続内容を導入できるよう促す」(川上恭子1994:77)としている。

富樫純一(2002)では、独り言に現れる「ま(一)」についての論述がなされている。ただし、「ま(一)」の本質的な機能を「心内での計算処理過程が関わりをもつ」としているのは、あくまでも先行研究の定延利之・田窪行則(1995)、田窪行則・金水敏(1997)の考え方と同じである。また、「ま(一)」は「曖昧性を示す」としているが、発話における「ま(一)」すべてが曖昧性を示しているのか、という疑問が残る。

フィラーとしての「ま(一)」は、必ず何らかの文脈、背景を前提として、そこから一定の評価、主張、見解、判断、説明などを引き出すもので、本稿は先行研究を踏まえつつ、「ま(一)」の基本的な意味は「評価、主張、見解、判断、説明などを慎重に、謙遜して述

べる」とする。

## 3. 調査要領

日本語母語話者の談話のフィラーに待遇差があることを検証するため、2014年4月17日に会話調査を実施した。

会話調査では2つの会話を収集した。それらを「【会話1】」、「【会話2】」と呼ぶ。【会話1】は20代の4年生の大学生2人のYF1とYF2の会話である。【会話2】は20代の4年生の大学生YF2と60代の社会人OF1の会話である。【会話1】のYF2と【会話2】のYF2は同じ人物である。本稿の会話調査はフィラーに待遇差があることを検証するデータであるため、YF2に同じ4年生の若者YF1と、年上の60代の社会人OF1とそれぞれ会話をしてもらった。本稿は同じ人物であるYF2の【会話1】と【会話2】に現れるフィラーの「ま(一)」を抽出、分析する。会話調査は協力者の性別、親密度を一致させるため、YF1,YF2,OF1はすべて女性で、初対面としている。2つの会話調査はいずれも30分程度の自由会話である。会話はICR-RB76Mレコーダー(三洋電機株式会社)で録音した。

本稿では、会話データを挙げる場合、「ま(一)」が含まれている発話は言うまでもなく、その前後の発話も合わせて挙げる。これは文脈を明確にするためである。

会話データを文字化する際、次のような記号を使用している。

- # 聞き取り不能部分を示す。聞き取り不能部分の推測される拍数に応じて、同数の記号をつける。
- ? 直前の文が疑問文であることを示す。
- ( ) 聞き手の短く、特別な意味を持たない「あいづち」、笑い、短い単語の繰り返し

しなどを示す。

<W> 笑いを示す。笑いながら発話したものは、< >の中に、<Wながら>、<2人W>などのように説明を示す。

□ 分析対象語であることを示す。

また、会話では、発話ごとに「02199YF2」のような発話番号を使用している。前の2桁数字「02」は会話全体を示す番号、次の3桁数字は発話の通し番号、「YF2」は発話者である。

分析に入る前に、分析対象ではない「ま(ー)」を明らかにしておこう。

- (4) a. まー、きれい。  
 b. 川魚の味は、まーまーです。  
 c. (喧嘩している2人に)まーまー。

上の(4a)の「まー」は感動詞であり、驚きの意味を表す。(4b)の「まーまー」は程度副詞で、食べ物のおいしさの程度を表す。(4c)の「まーまー」は感動詞で、落ち着いてくださいという意味である。これらの3種類の「ま(ー)」は分析対象外とする。

## 4. 分析

本稿では、フィラーの「ま(ー)」の待遇差を検証することが目的である。本節では【会話1】と【会話2】の両方に共通するYF2の発話に現れる「ま(ー)」の生起環境および使用状況を観察する。その結果、「ま(ー)」は大きく2種類に分けられることが判明している。1つは文構造に関わる「ま(ー)」で、「統語的な「ま(ー)」と呼ぶことができる。もう1つは主題や主語の直後、また、相手から質問などの情報を受け取った直後の「ま(ー)」で、「談話的な「ま(ー)」と呼ぶことができる。

本稿では、統語的な「ま(ー)」と談話的な「ま(ー)」の2種類に仮に分けた。統語的な「ま(ー)」は、文の構造、文の構成にかかわり、統語レベルの面から考察する「ま(ー)」である。談話的な「ま(ー)」は、発話者が発話を進めるために、質問したり、発話権を取るために、主題を提示したり、また、相手に応じて、答えたりするストラテジーを使うもので、談話運営の面から考察する「ま(ー)」である。

さらに、統語的な「ま(ー)」の生起環境と文構造の形式には一定の関連性が見られる。それによって、統語的な「ま(ー)」は、3種類に分けられる。1つ目は「句と句の間に現れる場合」、2つ目は「従属節と主節の間に現れる場合」、3つ目は「文と文の間に現れる場合」である。

また、談話的な「ま(ー)」は3種類に分けられる。1つ目は「主語や主題の直後に現れる場合」で、2つ目は「相手に質問された直後に現れる場合」で、3つ目は「相手から質問など情報を受け取った後、「はい」「そうですね」などの応答をした直後に現れる場合」である。

以下では、統語的な「ま(ー)」と談話的な「ま(ー)」の例を挙げながら、詳しく見てみよう。

### 4.1. 統語的な「ま(ー)」

統語的な「ま(ー)」では、「句と句の間に現れる場合」は「句間の「ま(ー)」」、「従属節と主節の間に現れる場合」は「節間の「ま(ー)」」、「文と文の間に現れる場合」は「文間の「ま(ー)」」とそれぞれ呼ぶことにする。

#### 4.1.1. 句間の「ま(ー)」

句間の「ま(ー)」は次の文形式が観察された。

- (5) a. ～を、ま(ー)～

- b. ～に、ま(一)～
- c. ～でも、ま(一)～
- d. ～ではなく、ま(一)～
- e. ～みたいに、ま(一)～

#### 4.1.1.1. ～を、ま(一)～

(5a)の文形式は【会話2】にしか現れなかった。次の例が挙げられる。

##### 【会話2】

- (6) 02199YF2 あ、そうなんですか、私は、ワイドショーとかも見るんですけど、(はい)けっこう、いろいろ好き放題を言ってますね<W>
- 02200OF1 そうですか
- 02201YF2 はい、いろんな噂を、ま、ああいうのを、いろいろ求める人がいるんだなあと思ってます
- 02202OF1 そうそう

(6)は、「いろんな噂を」の直後に現れる「ま(一)」の例で、対格(ヲ格)句の直後の「ま(一)」と言える。YF2は自分の見解を言うため、「ま(一)」を使っている。

以上より、ここでの「ま(一)」は【会話2】でのみ現れているため、「ま(一)」には待遇性があると言える。

#### 4.1.1.2. ～に、ま(一)～

(5b)の文形式は【会話1】にしか現れなかった。次の例が挙げられる。

##### 【会話1】

- (7) 01137YF1 あ、そうなんですよ
- 01138YF2 なので、音楽が好きな人が、その卒論だけ、(うん)目標

に、あと、ま、みたいな感じですね、国語だけです、文芸で、それぞれは(うん)あとは頑張ったら、いろいろ取れると思うんですけど、(うん)授業の兼ね合いとかで、なかなか難しいかもしれないです、私幼稚園も取りたかったんですけど、(はい)ぜんぜん被らなくて、文芸の授業と幼稚園教育の授業が、留年しないと全部取れないってと言われて、(あー)そして、やめまして<W>、留年かと思ってる

(7)は、「～目標に」の後ろに現れる「ま(一)」の例で、与格(ニ格)句の後ろの「ま(一)」と言える。また、「に」と「ま(一)」の間に「あと」が挿入されている。YF2は自分の見解を言うため、「ま(一)」を使っている。

今回のデータは少ないため、ここでの「ま(一)」の待遇性があるか否か、言いがたいと言えよう。

#### 4.1.1.3. ～でも、ま(一)～

(5c)の文形式は【会話2】にしか現れなかった。次の例が挙げられる。

##### 【会話2】

- (8) 02148OF1 あ、先生方との関係が？
- 02149YF2 はい、本当に、ま、その仕事面に関してでもですし、私が見たのは、ほんの2週間のできごとなんですけど、(そうですね)本当にささいなことしか知らない

思うんですけど、(はい)でも、その間でも、いろいろ、**ま**、生徒にもいろんな子がいますし、ま、私も実習生ということもあるんですけど、ま、すごいいやな言い方ですけど、なめられるというか(は一)、なんとなく、こう、ま、先生としてではなく、(はい)ま、お姉さんみたいに、で、ま一、接してくれるんですけど、(は一)ま、ちょっと心無い言葉を発する子もいたりして、(はい)ま、それは、ま、中学生なので<W>

なことしか知らないと思うんですけど、(はい)でも、その間でも、いろいろ、ま、生徒にもいろんな子がいますし、ま、私も実習生ということもあるんですけど、ま、すごいいやな言い方ですけど、なめられるというか(は一)、なんとなく、こう、ま、先生としてではなく、(はい)**ま**、お姉さんみたいに、で、ま一、接してくれるんですけど、(は一)ま、ちょっと心無い言葉を発する子もいたりして、(はい)ま、それは、ま、中学生なので<W>

(8)は、「その間でも」の後ろに現れる「ま(一)」の例で、デ格句の後ろの「ま(一)」と言える。また、「で」と「ま(一)」の間に「いろいろ」という挿入要素が現れている。YF2は自分が思っている事実を述べるため、「ま(一)」を使っている。

以上より、ここでの「ま(一)」は【会話2】でのみ現れているため、「ま(一)」には待遇性があると言えよう。

#### 4.1.1.4. ～ではなく、ま(一)

(5d)の文形式は【会話2】にしか現れなかった。次の例が挙げられる。

##### 【会話2】

- (9) 02149OF1 あ、先生方との関係か？  
02150YF2 はい、本当に、ま、その仕事面に関してもですし、私が見たのは、ほんの2週間のできごとなんですけど、(そうですね)本当にささい

02151OF1 一番ね、一番難しい時期と  
いうか

(9)は、「先生としてではなく」の後ろに現れる「ま(一)」の例である。ここでは、「～ではなく」の直後に、OF1の「はい」という相槌が挿入されている。YF2は自分の判断と考えを述べるため、「ま(一)」を使っている。

以上より、ここでの「ま(一)」は【会話2】でのみ現れているため、「ま(一)」には待遇性があると言えよう。

#### 4.1.1.5. ～みたいに、ま(一)～

(5e)の文形式は【会話2】にしか現れなかった。次の例が挙げられる。

##### 【会話2】

- (10) 02148OF1 あ、先生方との関係が？  
02149YF2 はい、本当に、ま、その仕事面に関してもですし、私が見たのは、ほんの2週間

のできごとなんですけど、(そうですね)本当にささいなことしか知らないと思うんですけど、(はい)でも、その間でも、いろいろ、ま、生徒にもいろんな子がいますし、ま、私も実習生ということもあるんですけど、ま、すごいいやな言い方ですけど、なめられるとか(はー)、なんとなく、こう、ま、先生としてではなく、(はい)ま、お姉さんみたいに、で、まー、接してくれるんですけど、(はー)ま、ちょっと心無い言葉を発する子もいたりして、(はい)ま、それは、ま、中学生なので<W>

- c. ~ので、ま(ー)~
- d. ~し、ま(ー)~
- e. ~ず、ま(ー)~

#### 4.1.2.1 ~けど、ま(ー)~

(11a)は【会話1】と【会話2】に両方とも多く現れている。以下に挙げる。

##### 【会話1】

- (12) 01141YF1 えー、でも、できたら地元がよかったですね  
01142YF2 そうですね、私地元大好きなんですよね、(うん)<W>地元すごい好きで、実家も大好きで、出たくなくて、って思ってたんですけど、ま、出ざるをえない状況になって、涙の別れをしてみました<W>

(10)は、「お姉さんみたいに」の後ろに現れる「ま(ー)」の例である。「お姉さんみたいに」と「ま(ー)」の間に「で(ー)」(本稿では、「で」と「でー」は同じく「で(ー)」と記述する)という挿入要素が現れている。YF2は自分の見解を述べるため、「ま(ー)」を使っている。

以上より、ここでの「ま(ー)」は【会話2】でのみ現れているため、「ま(ー)」には待遇性があると言えよう。

#### 4.1.2. 節間の「ま(ー)」

YF2の発話には節間の「ま(ー)」が頻繁に現れる。それらを分類すると、次の5種類の文形式に分けられる。

- (11) a. ~けど、ま(ー)~
- b. ~(っ)て、ま(ー)~

- (13) 01037YF1 ええー、でも、なんか勉強したいなあーと思います？  
01038YF2 英語ができたらかっこいいなあーとすごい思うんですけど、(うんうん)でも、実際、まー、やってないし、勉強も、<2人W>憧れだけなんですけど、(うんうん)でもすごい、英語できる人がうらやましいです、憧れます、私は日本語、なんですけど、(はい)研究するの、(えー)、日本語っていうか、社会言語学みたいな、(うんうん)言語を取り扱うゼミなんですけど、もう、自分がしゃべっている日本語でさえ、もう、正し



いか、<W>分からないですけど、何の意味があるかと思って<2人W>どっちかという、文学にも興味あるんですけど、(うんうん)でも文学メインしちゃうと、ちょっとそれは、どうかなあと思いながら、すごい今模索しています<W>

【会話2】

- (14) 02080OF1 そうですね  
02081YF2 試験を受けて、受かればいいんですけど、(はい) まー、私は、和歌山はすごい田舎なので、(はい)学校は少なくて
- (15) 02150OF1 一番ね、一番難しい時期と  
いうか  
02151YF2 ねー、ま、ちょっと恥ずかしいという気持ちもあるんですけど、異性なので、(はい)ま、そういうのもあって、ま、最初は、つらい経験もあったんですけど、(はい) まー、でも、こんな経験できるのは今しかないので(そうですね)##負けずに私も生徒と話しかけたりして、いろいろ、どういったら、コミュニケーションとれるかなと考えながらやりました、(はい)でも、2週間だったので、(はい)やっと打ち解けられたなと思ったときには、もうお別れだったので

(12)~(15)は、いずれも接続助詞「けど」の後ろに「ま(ー)」が現れている。(13)では、「けど」の直後、「ま(ー)」の直前に「でも、実際」が現れている。(15)では、「ま(ー)」の直後に「でも」が観察される。これらを観察すると、2つの会話の「ま(ー)」の前後に「でも」がよく現れる傾向がある。(11a)は、「でも」が接続助詞「けど」と同じ逆接の機能をしているので、「ま(ー)」の前後に現れる場合が多いだろう。

挿入要素については、(13),(14),(15)の「ま(ー)」の前に、YF1の「うんうん」あるいはOF1の「はい」が見られる。

また、それぞれの例文の「ま(ー)」の意味を吟味すると、(11a)の「ま(ー)」が出現するところは、ほとんど発話者の評価、主張である。(13),(15)はその例である。

以上より、ここでの「ま(ー)」は【会話1】と【会話2】に両方とも多く現れているため、「ま(ー)」には待遇性がないと言えよう。

4.1.2.2. ~つて、ま(ー)~

2つの会話から(11b)の文形式が多く観察される。次のような例が挙げられる。

【会話1】

- (16) 01173YF1 #サークルとか、何か入っていますか  
01174YF2 私は、テニスと(うんうん)あとグリーっていう合唱(うんうん)サークルみたいなものに入ってて、(えー)でー、 まー、グリーはこの前の新フェイスで、修了みたいな、私は、卒業
- (17) 01185YF1 忙しいですよ  
01186YF2 はい、けっこう人も足りな

くて、今頑張っ、入れよ  
うとしているんですけど、  
ぜんぜん入ってくれなく  
て、(はい)で一、手伝い  
に行ったりとか、(うん)入  
るとき入ってほしいとい  
うふうに言われて、**ま**、  
なかなか断れなくて<W>

【会話2】

- (18) 02084OF1 全県で8名くらいですか?  
02085YF2 はい、県全体(はい、県全  
体で)で8名なので、で、(う  
ん?)今講師でやっていっ  
らしゃる先生も、また、受  
けるので、(あ、そうそう)  
私は難しいかなと思いまし  
て、で、**ま**、大阪も(はい)  
ちょっと、受けてみようか  
なと思って、はい、考えて  
います、大阪は結構大変で  
すけど<W>
- (19) 02157YF2 何人か手紙とかもくれたり  
して、(あら)最後は寄せ書  
きとかもくれて
- 02158OF1 ま一、すごい  
02159YF2 とっても先生がいい人で、  
(はい)本当に、夜遅くまで  
指導とかも手伝って下さっ  
て、**ま**、すごいいい経験  
でした

(16)~(19)はいずれも、接続助詞「て」の  
後ろに現れる「ま(一)」である。(16)と(18)  
は「て」と「ま」の間に「で(一)」が現れて  
いる。これらの「で(一)」は接続詞の「それ  
で」の意味と同じであると考えられる。また  
(11b)、「ま(一)」が出現するところは、発

話者が前の発話内容に続いて説明、考えを述  
べる場合が多い。

以上より、ここでの「ま(一)」は【会話1】  
と【会話2】に両方とも多く現れているため、  
「ま(一)」には待遇性がないと言えよう。

4.1.2.3. ~ので、ま(一)~

調査の結果から、(11c)は【会話1】と【会  
話2】両方に現れた。次の例文が挙げられる。

【会話1】

- (20) 01051YF1 めっちゃ厳しいですよ、  
(はい)厳しいっていうか、  
その採用の枠がそれぞれ少  
ないから、すごい争奪戦と  
いうか
- 01052YF2 そうなんです、私は、高  
校なんです、(うん)で、  
高校の国語だと、8人とか  
なんで、(はい)**ま一**、すく  
ないですよ、<W>なの  
で、すごい狭き門で、ちょ  
つ<W>(うん)やってみて  
いるけど

【会話2】

- (21) 02078OF1 そうですね、(はい)ほんと、  
えーと、そうすると、あ  
の一、就職はどんな?
- 02079YF2 就職は、私は教師を目指し  
ているので、(はい)**ま一**、  
できれば、地元の方で
- 02080OF1 そうですね

これらの例では、「~ので」という従属節  
の後ろに「ま(一)」が現れている。ただ、い  
ずれの場合も、「ま(一)」の直前に、YF1あ  
るいはOF1の「はい」という相槌が挿入され

ている。

(20)では、「8人とかなんで」の「なんで」は「なので」と同じ意味と理解できる。ここはYF2が自分の判断を言うため、「ま(ー)」を使っている。(21)では、YF2は個人的な考えを慎重に言いたいため、「ま(ー)」を用いている。

以上より、ここでの「ま(ー)」は【会話1】と【会話2】に両方とも現れているため、「ま(ー)」には待遇性がないと言える。

#### 4.1.2.4. ～し、ま(ー)～

本調査のデータでは、(11d)の文形式は【会話2】にしか現れなかった。次の例文が挙げられる。

##### 【会話2】

(22) 02115YF2 ま、小学生の頃は、(はい)まー、まだ、わりとできた方で<W>、(そうですか)勉強は楽しいなと思っていたんですけど、(はい)ま、中学生は普通にあがってきたし(はい)、で、高校受験で一度落ちて、(はー)で、まー、私の時は、前期、後期制だったんですよ、(はい)後期前期受験も、(はい)後期で受かって(はいはい)で、また大学受験も、ま、志望の大学に届かず、(はい)ま、こちらの大学に来ちゃって(はい)ま、やっぱり、落ちた時に、すごい不安だし、もう、あの時は、この世の終わり位まで<W>考えちゃったんですけど

02116OF1 それは不安ですよ

02117YF2 はい、でも、今は、まー、この大学に来て(はい)本当によかったなと思うし、ま、さっき、できなかった、できない子の気持ちも、私は分かるかなと思って

(22)では、接続助詞「し」の直後に現れる「ま(ー)」の例である。接続助詞「し」は、一般的に並立を表すが、ここの「本当によかったなと思うし」は「ま(ー)」の直後の部分の理由と理解できる。YF2は「できない子の気持ちも、私は分かる」という主張を述べるため、「ま(ー)」を使っている。

以上より、ここでの「ま(ー)」は【会話2】でのみ現れているため、「ま(ー)」には待遇性があると言える。

#### 4.1.2.5. ～ず、ま(ー)～

ここでの「ず」は動詞の打ち消しの「ず」である。(11e)の文形式も【会話2】にしか現れなかった。次の例が挙げられる。

##### 【会話2】

(23) 02114OF1 あー、そうですか

02115YF2 ま、小学生の頃は、(はい)まー、まだ、わりとできた方で<W>、(そうですか)勉強は楽しいなと思っていたんですけど、(はい)ま、中学生は普通にあがってきたし(はい)、で、高校受験で一度落ちて、(はー)で、まー、私の時は、前期、後期制だったんですよ、(はい)後期前期受験も、(はい)後期で受かって(はいはい)

で、また大学受験も、ま、志望の大学に届かず、(はい)ま、こちらの大学に來ちゃって(はい)ま、やっぱり、落ちた時に、すごい不安だし、もう、あの時は、この世の終わり位まで<W>考えちゃったんですけど

(23)では、打消しの意味の助動詞「ず」の後ろに現れる「ま(一)」の例である。ここでも、「ま(一)」の直前にOF1の相槌「はい」が挿入されている。

YF2は「志望の大学に届かず」と言って後に、「ま(一)」と発して、今通っている大学に入学したことを説明する。

以上より、ここでの「ま(一)」は【会話2】でのみ現れているため、「ま(一)」には待遇性があると言えよう。

#### 4.1.3. 文間の「ま(一)」

文間の「ま(一)」には次のような文形式が観察された。例を挙げながら見てみよう。

- (24) a. ～ます、ま(一)～
- b. ～とか、ま(一)～
- c. ～というか、ま(一)～

なお、(24b),(24c)の「～とか」「～というか」を文や節と捉えるのか、それとも句と捉えるのかについては、議論の余地がある。ここでは、暫定的に文として扱っておく。

##### 4.1.3.1. ～ます、ま(一)～

(24a)の文形式は【会話2】にしか現れなかった。次の例が挙げられる。

#### 【会話2】

(25) 02137YF2 こつこつやらないと、(本当です)でも、教採、教育の試験も、とても難しいので、(はー)もう、まわりの人とかが、だんだん実力が上がっていくのを感じると、(はい)すごい焦りますね

02138OF1 は、そうですね

02139YF2 どうしようって思います<W>、すごく、ま、でも、ずーと目指してきた夢なので、教師は、(はい)ま、落ちても、何度もトライしようかなと思っています<W>

(25)は、「ます」文の後ろに現れる「ま(一)」の例である。ここでは、「ます」文と「ま(一)」の間に、「<W>」「すごく」が、また「ま(一)」の後ろに「でも」がそれぞれ挿入されている。ここはYF2は自分の考えを述べるため、「ま(一)」を使っている。

以上より、ここでの「ま(一)」は【会話2】でのみ現れているため、「ま(一)」には待遇性があると言えよう。

##### 4.1.3.2. ～とか、ま(一)～

(24b)の文形式は【会話2】にしか現れなかった。次の例が挙げられる。

#### 【会話2】

(26) 02210OF1 そうですね、(はい)ま、民放のニュースは、NHKとは違う角度があったりして  
02211YF2 そうですね、こんなことをニュースにするんだと思ったりして、(そうですね)

ね)なんか、動物園でクマの赤ちゃんが生まれたとか、  
<W>ま、面白いんですけどね

発する子もいたりして、(はい)ま、それは、ま、中学生なので<W>

(26)は、「～とか」の後ろに「ま(一)」が現れる例である。「ま(一)」の前に「<W>」が挿入されている。YF2はニュースに対して自分の評価を述べるため「ま(一)」を用いている。

以上より、ここでの「ま(一)」は【会話2】でのみ現れているため、「ま(一)」には待遇性があると言える。

#### 4.1.3.3. ～というか、ま(一)～

(24c)の文形式は【会話2】にしか現れなかった。次の例が挙げられる。

- (27) 02148OF1 あ、先生方との関係か？  
02149YF2 はい、本当に、ま、その仕事面に関してですし、私が見たのは、ほんの2週間のできごとなんですけど、(そうですね)本当にささいなことしか知らないと思うんですけど、(はい)でも、その間でもいろいろ、ま、生徒にもいろんな子がいますし、ま、私も実習生ということもあるんですけど、ま、すごいいやな言い方ですけど、なめられるというか(はー)、なんとなく、こう、ま、先生としてではなく、(はい)ま、お姉さんみたいに、で、まー、接してくれるんですけど、(はー)ま、ちょっと心無い言葉を

(27)では、「～というか」の後ろに「ま(一)」が現れている。「ま(一)」の前に「なんとなく」「こう」との挿入要素が現れている。また、OF1の「はー」という相槌も挿入されている。YF2は自分の考え、主張を述べるため「ま(一)」を使っている。

以上より、ここでの「ま(一)」は【会話2】でのみ現れているため、「ま(一)」には待遇性があると言える。

## 4.2. 談話的な「ま(一)」

談話的な「ま(一)」では、「主語や主題の直後に現れる場合」を「主題直後の「ま(一)」」、「相手に質問された直後に現れる場合」を「質問直後の「ま(一)」」、「相手から質問など情報を受け取った後に、「はい」「そうですね」などの応答の直後に現れる場合」を「応答直後の「ま(一)」とそれぞれ呼ぶことにする。

次に例を挙げながら3種類の「ま(一)」を分析していく。

### 4.2.1. 主題直後の「ま(一)」

調査結果を見ると、YF2の発話に、主題直後の「ま(一)」は【会話1】にはなかったが、【会話2】には多く見られた。次のような例文である。

#### 【会話2】

- (28) 02033YF2 私、マクドナルドで、<W>バイトをしています<W>  
02034OF1 はい、マクドナルドって言ったら、あ、あれは違うか、あの、おじさんの、メガネをかけたおじさんは

- 02035YF2 あれはケンタッキーです<W>  
02036OF1 ケンタッキーですね、あ、  
そうですか  
02037YF2 はい、私は、**ま**、生活館  
の方  
02038OF1 あ、そうですか

- (29) 02118OF1 そうですね、その気持ちも  
知っているということも  
##  
02119YF2 はい、それも、**ま**、強み  
かなと思うんですね、(そ  
うですね)ま、すごい頭の  
いい人はうらやましいんで  
すけど、<W>私は、そこは、  
ちょっと努力でカバーとい  
うか<W>

(28),(29)から分かるように、「ま(一)」の直前には副助詞「は」「も」が現れ、主題を表すことがある。

(28)では、YF2がケンタッキーのある方ではなく、生活館の方でアルバイトをしていることを説明するとき用いている。(29)では、YF2は挫折の気持ちを知ることも強みだと思いう主張を言うときに用いている。

以上より、ここでの「ま(一)」は【会話2】でのみ現れているため、「ま(一)」には待遇性があると言えよう。

#### 4.2.2. 質問直後の「ま(一)」

調査の結果から、YF2の発話には、質問直後の「ま(一)」は【会話1】と【会話2】の両方に観察された。次の例文が挙げられる。

##### 【会話1】

- (30) 01241YF1 なんでマックにしたんですか?

- 01242YF2 **まー**、紹介ですね、先輩、サークルの先輩の紹介で、(うん)いいよって、マクに入ったんですけど、まー、楽しいことも、ありますけど、まー、きついことの方多いですね<W>

##### 【会話2】

- (31) 02114OF1 あー、そうですか  
02115YF2 **ま**、小学生の頃は、(はい)まー、まだ、わりとできた方で<W>、(そうですか)勉強は楽しいなと思ってたんですけど、(はい)ま、中学生は普通にあげてきたし(はい)、で、高校受験で一度落ちて、(はー)で、まー、私の時は、前期、後期制だったんですよ、(はい)後期前期受験も、(はい)後期で受かって(はいはい)で、また大学受験も、ま、志望の大学に届かず、(はい)ま、こちらの大学に来ちゃって(はい)ま、やっぱり、落ちた時に、すごい不安だし、もう、あの時は、この世の終わり位まで<W>考えちゃったんですけど

(30)では、YF2は「なぜアルバイト先をマクドナルドにしたのか」と相手に質問され、マクドナルドに決めた理由を説明するとき「ま(一)」を使っている。(31)では、YF2は小学生時代の状況を説明するとき「ま(一)」を用いている。

以上より、ここでの「ま(一)」は【会話1】

と【会話2】に両方とも現れているため、「ま(一)」には待遇性がないと言えよう。

#### 4.2.3. 応答直後の「ま(一)」

応答直後の「ま(一)」は【会話1】と【会話2】の両方に観察されたが、【会話2】の方に多く現れた。

##### 【会話1】

(32) 01174YF2 私は、テニスと(うんうん)あとグリーっていう合唱(うんうん)サークルみたいなものに入ってて、(えー)で一、ま、グリーはこの前の新フェイスで、修了みたいな、私は、卒業

01175YF1 そうですよ、3年ぐらい

01176YF2 そうですね、3年、**ま**、人それぞれなんですけど、(うんうん)私は教採あるんで、(あ、そうですね)ちょっと、抜けました、でも、やっている子はずっとやりますね、人文の〇〇ちゃんも(うんうん)ずっとやられてたし、(うんうん)あと就職の決まった子とかはやりますね、次の七夕祭かなあ、(うんうん)ステージに向けて、(うん、なるほど)すごいですね、私は、もう、ちょっと

##### 【会話2】

(33) 02084OF1 全県で8名くらいですか?

02085YF2 はい、県全体(はい、県全体で)で8名なので、で、(うん?)今講師でやってい

らっしゃる先生も、また、受けるので、(あ、そうそう)私は難しいかなと思ひまして、で、ま、大阪も(はい)ちょっと、受けてみようかなと思って、はい、考えています、大阪は結構大変ですけど<W>

02086OF1 そうですか

02087YF2 はい、(うん?)**ま**、でも、やってみたいと思って、はい、今、勉強しています

(34) 02142OF1 挫折を知っている人が、受け持ちの先生になってもらいたいと思いますね

02143YF2 はい、そうですね、**ま**、でも、今、いろいろ問題がたくさんあって、教育

02144OF1 学校現場は大変ですね

(32)では、YF2は相手の意見に賛成ではないが、「そうですね」を発して、「ま(一)」を用いてから、自分の意見を述べている。また、「そうですね」と「ま(一)」の間に「3年」が挿入されている。

【会話2】の(33),(34)から、YF2は相手の質問や意見などに対して、賛成か否かにかかわらず、まず「はい」や「そうですね」と応答して、「ま(一)」を発して後、自分の意見、主張を述べている。挿入要素としては、この2つの「ま(一)」の直後に、「でも」が現れている。また、(33)では、「ま(一)」の直前にOF1の「うん?」という発話が挿入されている。

以上より、ここでの「ま(一)」は【会話1】と【会話2】に両方現れているが、【会話2】ではより多く現れているため、「ま(一)」に

は待遇性があると言えよう。

### 5. まとめ

本節では、【会話1】と【会話2】の中で、YF2の発話に現れる「ま(-)」の種類と相対的な出現頻度をまとめると、表1のようになる(記号の凡例は表1の下を見られたい)。

表1を見ると、まず句間の「ま(-)」では、【会話1】と【会話2】の両方に若干観察されていることが分かる。句は独立性の度合いが低いと考えるため、句の直後に「ま(-)」が現れることは少ないと言えよう。そうであるとは言え、【会話2】の方に「ま(-)」がやや多く現

れることから、「ま(-)」に待遇差があると言える。

次に、節間の「ま(-)」においては、「~けど、ま(-)~」と「~て、ま(-)~」が【会話1】と【会話2】の両方で出現頻度が高い。【会話1】と【会話2】の間では、あまり差が見られなかった。

「~けど、ま(-)~」、「~て、ま(-)~」の文形式が【会話1】と【会話2】両方に出現頻度の高いのは、なぜだろうか。それは、従属節と主節との関係、即ち従属節の独立性の問題と関連があると考えられる。南不二男(1974)は、従属の度合いによって、従属節をA類、B類、C類の3種類に分けた。表1で出

[表1] 「ま(-)」の分類および出現頻度

分類			【会話1】						【会話2】					
			挿入要素			頻度	挿入要素			頻度	挿入要素			
			ま(-)の直前	ま(-)の直後	相槌		ま(-)の直前	ま(-)の直後	相槌					
統語的な「ま(-)」	句間	~を、ま(-)~	×	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	
		~に、ま(-)~	○	あと	-	-	×	-	-	-	-	-	-	
		~でも、ま(-)~	×	あと	-	-	○	いろいろ	-	-	-	-	-	
		~ではなく、ま(-)~	×	-	-	-	○	-	-	-	はい	-	-	
		~みたいに、ま(-)~	×	-	-	-	○	で(-)	-	-	-	-	-	
	節間	~けど、ま(-)~	●	でも、実際	-	-	うん	●	でも	でも	はい	-	-	
		~て、ま(-)~	●	で(-)、ん、基本は	その	-	えー	●	で(-)、	やっぱり	はい	-	-	
		~ので、ま(-)~	○	-	-	はい	○	-	-	-	はい	-	-	
		~し、ま(-)~	×	-	-	-	◎	-	-	-	-	-	-	
		~ず、ま(-)~	×	-	-	-	○	-	-	-	はい	-	-	
	文間	~ます、ま(-)~	×	-	-	-	○	<W>、すごく	でも、ずっと	-	-	-	-	
		~とか、ま(-)~	×	-	-	-	○	<W>	-	-	-	-	-	
		~というか、ま(-)~	×	-	-	-	○	なんとなく、こう	-	-	はい	-	-	
	談話的な「ま(-)」	主題直後	~は(も)、ま(-)~	×	-	-	-	●	-	-	はい	-	-	
		質問直後	ま(-)~	○	-	-	-	○	-	-	-	-	-	
応答直後		「はい」「そうですね」、ま(-)~	○	3年	-	-	●	本当に	でも	うん	はい	-		

(凡例:「ま(-)」 ●:もっとも現れやすい ◎:現れやすい ○:現れる ×:現れない  
挿入要素 -:挿入要素現れない)



現頻度の高い「～けど」「～て」、そして「～し」はC類に属しているのである。C類の従属節は相対的に独立度が高く、それゆえその直後に様々な要素が入りやすいと言える。ただ、以上の結果は待遇差とは関係ないようである。構文的な性質上、「ま(一)」が入りやすい、というだけのことである。節間の「ま(一)」のうち、これら以外では、「～ず、ま(一)～」だけに【会話1】と【会話2】の差が現れている。ここには待遇差が反映されているように見えるが、データが少ないため明らかではない。従って、節間の「ま(一)」全体では待遇差があまり反映されているとは言えないであろう。

それに対して、文間の「ま(一)」では、文の独立性の度合いが高く、「ま(一)」が文の間に現れやすいと考えられる。ここでは、「ま(一)」の前後に様々な挿入要素が観察された。文間の「ま(一)」の出現頻度を見ると、全般적으로는【会話2】の方が多く現れている。ここからも「ま(一)」に待遇差があることが言える。

一方、談話的な「ま(一)」においては、主題直後の「ま(一)」と応答直後の「ま(一)」で【会話2】の出現頻度が高い。

主題直後という位置は、統語的には句間であり、その直前の名詞句は独立性が低いように見えるが、意味的には主題提示機能を有しているため、独立性が高いのではないかと考えられる。また、音声的にも、主題にはプロミネンスが置かれることがある。それゆえ、談話論的・語用論的にも主題部分は焦点化されていると言えよう。

応答直後の「ま(一)」については、その直前に応答詞のような要素が挿入されていることから、さらにその前にある発話との距離は統語的にも意味的にも非常に遠いと考えられる。ただ、談話的には、応答詞のような挿入

要素によって、発話権を長時間保持していることになる。これは、発話者にとって有利な談話運営を行っていることに他ならない。

このように考えると、前述の主題直後の「ま(一)」の場合も同様に、主題の焦点化はある名詞句の顕著な取り立てであるため、談話運営上も発話者に有利な立場をもたらすことになるのではなかろうか。そして、これが待遇性と関連があるのではなかろうか。即ち、具体的にはYF2はOF1に比べて年齢も若く、談話上相対的に不利な立場にあると考えられる。談話上有利な立場に立つためには、相手よりも有利に談話運営を進めていかなければならない。その具体的なストラテジーが、主題の焦点化であり、長時間の発話権保持なのではないか。そして、これらは直後に来る「ま(一)」によってさらに促進されていると考えられる。

以上の記述をまとめると、次のようになる。

- (35) a. 統語的な「ま(一)」においては、「ま(一)」の直前にある要素が相対的に独立性(独立性)が高い場合に、「ま(一)」に待遇差が反映される(待遇性を帯びる)。  
 b. 談話的な「ま(一)」においては、「ま(一)」の直前にある要素が談話運営を発話者にとって有利に進める機能を果たす場合、「ま(一)」に待遇差が反映される(待遇性を帯びる)。

## 6. おわりに

本稿では、フィラーの「ま(一)」の待遇差を談話レベルにおける分布から分析した。フィラーは一見無意味であると考えられがちであるが、本稿の分析結果によると、フィラーの「ま(一)」は場つなぎ機能、談話標識機能

以外に、待遇機能を有していることが判明した。

しかし、問題点や今後の課題も多数残っている。例えば、データの量が全体的に少ないため、本稿の結果をさらに検証する必要がある。今後、さらに多くの会話調査を行い、そこから「ま(一)」を抽出し、比較分析を行う予定である。その中で、統語的な「ま(一)」と文形式の関係、統語的な「ま(一)」の生起環境と待遇性との関係などを明らかにする。

また、本稿で示したフィラーの待遇差を断定するには、「ま(一)」以外のフィラーを観察、分析する必要がある。この問題を解決するためには、フィラーの定義と種類を確定しなければならない。具体例を挙げると、(36)に見られるように、「なんですかね」「なんか」「えーと」などの形式以外に、「<W>」も観察する。

(36) 01045YF1 えー、校長って、院に行かないと無理なんですか？

01046YF2 なんですかね、たぶん、いかないといけないことは<W>、(うーん)私は校長先生はあまりなりたいとは思わないので、<W>(うん)あまり分からないですけど、なんか、院に行くって、

ぜんぜん勉強してないですけどね、<2人W>、あと2年あるから、いいわーみたい、<W>言ってる、えーと、こんな、校長になるような感じの人ではないですね<W>

「<W>」のような言語行動がフィラーであるのか、そうであるとすると、どのように待遇差に反映されるのかなど、フィラーと待遇性との関係には大きな問題が存在している。

また、本稿では、「ま(一)」の待遇差を検討していく際に、「ま(一)」の前後に挿入される様々な要素について記述した。しかし、様々な挿入要素が現れる原因については明確になっていない。「ま(一)」だけではなく、他のフィラーの前後にも挿入要素が現れることが予測される。

さらに、理論的には、なぜ(36)のような現象が起こるのかという点については、現時点では明らかになっていない。おそらく統語的な「ま(一)」についても、談話運営の観点から説明できるのではないかと推測されるが、それを検証するためには、今後多くの談話データを収集して、それを綿密に分析するしかない。

## 【参考文献】

- 伊佐早敦子 (1953) 「はなしことば序 - 不整表現を中心として -」『国語国文』第22巻第3号
- 石川創 (2010) 「あいづちとの比較によるフィラーの機能分析」『早稲田日本語研究』19 pp.61-72
- 蒲谷宏・川口義一・坂本恵 (1998) 『敬語表現』大修館書店
- 川上恭子 (1993) 「談話における「まあ」の用法と機能 (一) - 応答型用法の分類 -」『園田国文』第14巻 pp.69-79
- (1994) 「談話における「まあ」の用法と

- 機能 (二) - 展開型用法の分類 -」『園田国文』第15巻 pp.69-79
- 川田拓也 (2008) 「ポスター会話におけるフィラーと視線の同期について」『京都大学言語学研究』27 pp.151-168
- 菊地康人 (1997) 『敬語』講談社
- (2003) 『朝倉日本語講座8 - 敬語 -』朝倉書店
- 串田秀也 (2005) 「「表す」感動詞から「する」感動詞へ」『言語』Vol.34 No.11 大修館書店 pp.44-51
- 小磯花絵・間淵洋子・西川賢哉・齊藤美紀・前

- 川喜久雄 (2004) 「転記テキストの仕様Version1.0」『日本語話し言葉コーパス』Disk 1
- 小出慶一 (1983) 「言いよどみ」水谷修編『講座日本語の表現3 話しことばの表現』筑摩書房 pp.81-87
- 佐久間鼎 (1943) 『現代日本語法の研究』更生閣 (改定版 (1952) : 恒星社更生閣, 複製 (1983) : くろしお出版)
- 定延利之 (1993) 「談話構造とフィラー」『日本語シンポジウム 言語理論と日本語教育の相互活性化 予稿集』津田日本語教育センター
- (2002) 「「うん」と「そう」に意味はあるか」定延利之 (編) 『「うん」と「そう」の言語学』ひつじ書房 pp.75-112
- (2004) 「日本語のりきみ-準備の考察」『文法と音声』くろしお出版 pp.35-52
- (2005) 『ささやく恋人、りきむりポーター口の中の文化』岩波書店
- (2010) 「会話においてフィラーを発するということ」『音声研究』日本音声学会 Vol.14 No.3 pp.27-39
- (2011) 「コミュニケーション研究からみた日本語の記述文法の未来」『日本語文法』日本語文法学会 Vol.14 No.3 pp.27-39
- (2005) 「「表す」感動詞から「する」感動詞へ」『言語』Vol.34 No.11 大修館書店 pp.33-39
- (2013) 「フィラー」『日本語学』Vol.32 No.5 明治書院 pp.10-25
- ・田窪行則 (1995) 「談話における心的操作モニター機能-心的操作標識『ええと』と『あの(ー)』-」『言語研究』No.108 日本語言語学会 pp.74-93
- 塩沢孝子 (1979) 「日本語のhesitationに関する一考察」F.C.パン編『社会言語学シリーズ ことばの諸相』文化評論出版No.2 pp.151-166
- 杉戸清樹 (1989) 「ことばのあいづちと身振りのあいづち-談話行動における非言語的表現」『日本語教育』67 日本語教育学会 pp.48-59
- 泉子・K・メイナード (1993) 『会話分析』くろしお出版
- (1997) 『談話分析の可能性-理論・方法・日本語の表現性-』くろしお出版
- (2013) 「あいづちの表現性」『日本語学』Vol.32 No.5 明治書院 pp.36-48
- 田窪行則 (2005) 「感動詞の言語学的位置づけ」『言語』Vol.34 No.11 大修館書店 pp.14-21
- ・金水敏 (1997) 「応答詞・感動詞の談話的機能」『文法と音声』くろしお出版 pp.257-279
- 富樫純一 (2002) 「談話標識「まあ」について」『筑波日本語研究』Vol.7 pp.15-31
- (2005) 「「へえ」「ほう」「ふん」の意味論」『言語』Vol.34 No.11 大修館書店 pp.22-29
- (2013) 「感動詞・応答詞」『日本語学』Vol.32 No.5 明治書院 pp.26-35
- 大工原勇人 (2010) 『日本語教育におけるフィラーの指導のための基礎的研究-フィラーの定義と個々の形式の使い分けについて-』博士論文 <http://www.lib.kobe-u.ac.jp/repository/thesis/d1/D1004831.pdf> (2014年10月1日アクセス)
- 堤良一 (2008) 「談話中に現れる間投詞アノ(ー)・ソノ(ー)の使い分けについて」『日本語科学』23 国立国語研究所 国書刊行会 pp.17-36
- 辻村敏樹 (1992) 『敬語論考』明治書院
- 中島悦子 (2011) 『自然談話の文法-自然談話の文法-疑問表現・応答詞・あいづち・フィラー・無助詞』おうふう
- 野村美穂子 (1996) 「大学の講義における文科系の日本語と理科系の日本語-『フィラー』に注目して-」『文教大学教育研究所紀要』第5号
- 橋内武 (1999) 『ディスコース 談話の織りなす世界』くろしお出版
- 橋本進吉 (1948) 著作集『国語法研究』岩波書店
- 文化審議会答申 (2007) 『敬語の指針』
- 水谷信子 (1983) 「あいづちと応答」水谷修編『講座日本語の表現3 話しことばの表現』筑摩書房 pp.37-44
- 南不二男 (1974) 『現代日本語の構造』大修館書店
- (1987) 『敬語』岩波書店
- (1993) 『現代日本語文法の輪郭』大修館書店
- 森本郁夫 (2013) 「間・沈黙」『日本語学』Vol.32 No.5 明治書院 pp.49-62
- 森山卓郎 (2000) 『ここからはじまる日本語文法』ひつじ書房
- 山下暁美 (1990) 「話し言葉におけるいわゆる“無意味語”」『講座日本語教育』第25分冊 pp.108-118
- 山根智恵 (2002) 『日本語の談話におけるフィラー』くろしお出版